

V243b JVO ポータル開発の進捗

白崎裕治, ザパート クリストファー, 大石雅寿, 水本好彦 (国立天文台)

Japanese Virtual Observatory (JVO) 開発グループでは天文データベースのポータルサイト、JVO ポータルの開発を進めている。本サービスは <http://jvo.nao.ac.jp/portal> において誰でも利用可能である。すばる望遠鏡や ALMA 望遠鏡、野辺山電波望遠鏡のデータの配信に加え、世界各国の天文データセンターが国際標準仕様に従って公開している天文データサービス (VO) への一元的なアクセス機能を提供している。本講演では、平成 29 年度から平成 30 年度前半にかけての開発の進捗状況について報告する。

(1) これまで ALMA データ専用の QL サービスとして提供していた ALMA WebQL を、汎用 FITS データ閲覧サービスとして野辺山電波望遠鏡のデータの閲覧もできるよう改修し、FITS WebQL へと改名してサービスを提供している。FITS WebQL は Desktop バージョンも公開されており、利用者自身が保有している FITS データも閲覧することが可能である。(2) VO サービス検索インターフェイスとして、JVOIndex, JVOExplorer の開発を行った。JVOIndex はメタデータから抽出されたインデックスを利用した VO サービス検索インターフェイスである。JVOExplorer は VO サービスの識別子の木構造をたどって VO サービスを検索するインターフェイスである。(3) 野辺山 45m 電波望遠鏡により観測されたレガシーサーベイデータの JVO からの公開を開始した。公開しているデータは銀河面サーベイ (FUGIN)、近傍銀河サーベイ (COMING)、星形成領域のデータである。(4) Gaia DR2 の検索サービスの公開を開始した。Gaia 本家のデータ検索システムよりも、使いやすさと検索速度、大量データ検索機能において優れたサービスを提供している。17 億件からなる Gaia 天体カタログの検索機能の他、Gaia プロジェクトが提供する様々な派生カタログをダウンロードする機能を提供している。